

# 令和6年度 植田中学校学力向上プラン（グランドデザイン）

## 植 中 プ ラ イ ド

### 生徒の実態

- ・目標を持ち、自ら学習、課題に取り組もうとする生徒が増えてきている反面、知識理解・技能の定着が不十分である生徒が見られる。授業の中で知識理解技能の習得に重点を置き、習熟度に応じた個別指導をし、確実に基礎学力を身に付けさせる必要がある。
- ・学校生活全体においての望ましい生活習慣、ルールやマナーが身につけている生徒が増えてきているが、発達段階に応じた指導を、随時行う必要がある。
- ・家庭学習や宿題の提出率は伸びているので、内容の改善や学習時間の延長が課題である。

### 教育目標

- 真の学力を身につけた生徒
- 豊かで素直な心情に満ちた生徒
- 体力と気力を備えた生徒

### 地域・保護者の願い

- ・基礎・基本の学力をしっかりと身に付け、積極的に授業に参加し、自学自習のできる子
- ・正しい規範意識を持ち、服装や言葉遣いなど、基本的な生活習慣が身に付いた子
- ・自律心を持って自分の進路実現に向かって努力する子

【研究主題】 確かな学力をもった生徒の育成

《副主題》 各教科の特質に応じた表現力育成の手立て

### 目指す教師像

- 1 広い教養
- 2 豊かな人間性
- 3 教育愛
- 4 使命感
- 5 充実した指導力

### 【研究の見通し】

生徒の興味・関心と集中力を高めるために、授業の導入時や展開、終末時において、基礎的・基本的事項の確実な理解・定着を図るための工夫が絶対的に必要である。  
 その上で、各教科の学習において、「書かせる学習活動や、生徒同士が書いたものを交流させる学習活動、更には意見・考えを発表させる学習活動等」を多く取り入れていくことで、考える力や表現する力を高めていくことができるだろうと考える。

### 求める授業像

- ・わかる授業
- ・問題解決的な学習の展開
- ・個に応じた習熟度別の指導
- ・明確なめあてとまとめの時間の確保

評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の工夫と活用</li> <li>・評価場面の設定と評価方法の工夫</li> <li>・目標や評価規準に準拠した評価の仕方</li> <li>・「関心・意欲」等の情意面の評価</li> <li>・「技能・表現」等の習得の程度の評価</li> <li>・「知識・見解」等の認知面の評価</li> <li>・「思考・判断」等の過程の評価</li> <li>・相互評価や自己評価の方法と活用</li> </ul>

授 業 の 改 善
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーチャイムによる授業</li> <li>・基本的な学習習慣の定着</li> <li>【学習用具の特参、指示に沿った学習活動、私語の禁止】</li> <li>・学習のねらいの明確化</li> <li>・学習意欲と集中力を高める課題作成</li> <li>・ICT機器を効果的に活用する授業</li> <li>・個に応じた学習課題【基礎・基本の学習、発展的学習】</li> <li>・個を生かす学習形態【ペア学習、グループ学習】</li> <li>・体験的な活動を取り入れ、考える力や表現する力を高める学習過程の工夫</li> </ul>

校 内 研 修
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における生徒の実態調査と成果、課題の検討</li> <li>・年間指導計画の作成と改善</li> <li>・単元ごとの評価規準の作成</li> <li>・評価についての共通理解</li> <li>・教師全員による授業研究</li> <li>・校内研修の事前・事後研究会</li> <li>・各種テスト結果の分析と課題検討</li> <li>・校外研修会への積極的な参加</li> </ul>

評 価 ↑ ↓ 改 善

評 価 ↑ ↓ 改 善

### 重点教科における手だて(◎指導の重点)

国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎計画的、継続的な漢字学習（「ミイワード」の活用）</li> <li>◎短作文指導と長文プリントによる読解力の向上</li> <li>・辞書の活用</li> <li>・文法豆テストの実施</li> <li>・家庭学習プリントの配付と評価</li> <li>・ノート指導、ワーク指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎まとめと振り返りの時間の確保</li> <li>◎単元プレテスト</li> <li>◎観点別評価表の活用</li> <li>◎毎時間の予習</li> <li>・ICT 機器や視聴覚教材の活用</li> <li>◎「ミイワード」のドリルワークの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「ミイワード」計算ドリルワークの活用</li> <li>◎計算ドリルの活用</li> <li>◎全学年個に応じた学習形態の授業（習熟の程度に応じたペア学習などきめ細かな指導の充実）</li> <li>・週末課題やワークの点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎観察や実験の時間の確保と技能の習得</li> <li>・ワークシートや ICT 機器、視聴覚教材の活用</li> <li>・パフォーマンステスト</li> <li>◎基本事項の反復学習と小テストの活用</li> <li>◎復習課題プリントの利用</li> <li>・宿題の提示、家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎コミュニケーション活動の充実</li> <li>・パフォーマンステスト</li> <li>・グループ発表</li> <li>◎英文の復唱、リズムとテンポのある指導、授業のシステム化</li> <li>◎毎時間の予習</li> <li>・ノートの作り方指導</li> <li>・ワーク活用の仕方指導</li> <li>◎「ミイワード」のドリルワークによる反復学習の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業スタンダードの活用</li> <li>・家庭学習スタンダードの活用</li> <li>・生徒による授業評価</li> <li>・朝の読書</li> <li>・学習環境の整備</li> <li>・授業での約束事の徹底</li> <li>・思考と表現する時間の確保</li> <li>・主体的な学習活動を推進するための学習形態の工夫</li> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・各種検定、コンクールへの積極的な参加</li> <li>・発問、板書、ノートの指導</li> <li>・全国学力学習状況調査の分析と授業改善</li> <li>・ふくしま学力調査の分析と授業改善</li> <li>・ふくしま活用力育成シートの活用</li> </ul>				

## 植田中の到達目標

- 授業の準備物の持参率や課題（宿題など）提出率を90%以上にする。
- 家庭における学習の実施率を90%以上にする。
- 5教科のICT機器の使用率を90%以上にする。